紀州からの贈り物・・・

小　林　　洋　夫

『イワチドリ』を始めて、彼是、２０年経つ・・・　アッと言う間に時間が過ぎ去った。始めた当時は、他人が見れば、可笑しい位に燃えたぎっていた。そして、現役だった・・・カバンの中には奈良の『サトー山草園』の貴重なイワチドリのカタログ、京都の『石田精華園』の長生蘭のカタログ等が入っていて、時間さえあれば覗き込んでいた。そして、これ等の山草園へ、遠路、遥々、出掛けたのは１回や２回ではない・・・

当然、信州からだと、一泊しなくてはならない。訪問が、４回～５回と重なると園主とも顔馴染みになった。
菅野さんや石田さんには可愛がってもらった。いや、売る側から見れば、騙し易い鴨だったのかも知れない？

話を『イワチドリ』に絞(しぼ)ろう・・・　サトー山草園のカタログは群を抜いていて、立派な物だった。取分け、『イワチドリ』が好きな私は、四六時中、このカタログを持ち歩いた・・・過日、千鳥足さんのホームページ：『渓谷の舞姫』に投稿したら、takuさんと二人で、褒められとも、冷やかしとも取れる同様な賛同の応答があった。このカタログ、見過ぎで、ボロボロになり、ガムテープで補強してあったからである。紀州の師匠さん方も、略、同じだったと言う・・・毎年発行されるカタログは、貴重な情報源だった。
察するに、このカタログの価格が、全国の標準価格として設定されていたようだ。
信州・富士見町に、中山植物園がある。どう言う訳か、此処の園主は、『イワチドリ』を集中的に所有していた。『瀞美人』『瀞日輪』『日の丸』『月輪』『四村錦』『五月雨』等等、当時としては高嶺の花、涎が滴る品種をシコタマ持っていた。此処の園主は口が堅く、中々話さなかったが、紀州辺りから仕入れ、増殖していたようだ。ある時、ドッと売り出した・・・当時、これ等は、超高級品、高嶺の花、50～100 万円もしていた。これ、ホンマの話！！！
当然、安サラリーマンの買える代物ではなかった。唯、唯、指を咥えて拝むのみだった。
走行している内に、これ等の交配物が出始めた・・・それでも 2～20 万円していた。
狂った蘭狂が食り付いたのは言うまでもない。これが、蘭狂の性と言う物だろうか？
私の専らの購入先は、サトー山草園だった。ツーカーの顔馴染みになっていたので、随分と便宜を図ってくれた。今、持っているクラシック種の大部分は、サトー山草園から嫁入りして来ている・・・

『イワチドリ』に狂い出して間もない頃、『趣味の山野草』で『日本イワチドリ愛好会』を知った。

ここのホット・ニュウスに、『会誌を発行していて、バック・ナンバーが何部かあるから希望者は・・・』という記事が載っていた。早速、申し込んでみた。初版と後 2 部欠番があったが、10 冊程、ドカッと送られてきた・・・6 月、梅雨時で、土曜の午前中だった。
昼御飯も食べずに、貪るようにして読み漁った。奴豪い会があった物だと感服し通しだった。感激の余り、お礼の電話を事務局にした。
その時、対応してくれたのが、今にして思えば、大恩師、川島さんだった。親切に色々な事を教えてくれた・・・惚れ込んで、即、『日本イワチドリ愛好会』に入会したのは言うまでもない・・・そして、この年の 11 月、ビック・ニュウスが、川島さんから届いた。それは、遠隔地の会員に本場の球根を斡旋するという朗報だった。オマケにリストまで付いていた。今でも憶えているが、この時、30 種類位お願いした。確か、当時のお金で 27 万円だった。この頃の私は、『イワチドリ』に狂った蘭狂そのもの、お金の事など余り気にしなかった。兎に角、珍しい品種が欲しかった。それ程、狂っていた・・・川島さんと電話での遣り取りがあり、川島さんは、私の言い分を聞いてくれ、随分と駆けずり回り、希望の品種を揃えてくれた。年が明け、ドッサリ球根が届いた。
この時頂いた品種に夢にまで見た『瀞日輪』『ちかこ』『姫蛍』『赤連雀』『熊野絣』等銘品が綺羅星の如く入っていた。

もう 15～6 年経つが、今でも健在の種類があり、中には、『初雪』『瀞丸』『月輪』等、滅茶苦茶増えている。どう言う訳か『ちかこ』丈は、枯れる事もなく、また、馬鹿増えもしない不思議な品種で、毎年決まって 4～5 本出てくる。山取り、クラシック種は、最近の交配種に比べると派手さはないが、侘び・寂を感じさせる計り知れない渋さを持っている・・・
この時、購入した『瀞日輪』には忘れられない思い出がある。来た時、馬鹿小さい芋だった。所謂、仁丹に近かった。この頃には、小さい芋は、花芽が付かない事を知っていたので、川島さんにクレームを付けた記憶がある。師匠から、『瀞日輪』は、元々、小芋だと言う事を教わった。そして、5 月、可愛い、小花が 1 つ咲いた・・・日に当てると、露点がキラキラ光り、見事な色合いを呈していた。この小芋が、今日では 60～70 本になっている。株立ちにすると、中々どうして・・・奥ゆかしい雰囲気がある・・・

私の近辺には蘭狂も居ないく、訪問者もないので、枯れさえしなければ、必然的にこのような情況になる・・・

もう、3 年前になるだろうか？展示会訪問の折、副会長の峯上さん、千鳥足こと角さん、川島さんの棚を見せて頂いた。何れも見事な棚で、それは、それは見事なお棚様だった。その数といい、品種といい、涎が滴るお棚様・・・

見せて頂いた上、貴重なお土産まで頂いた。峯上さんから頂いた『天女』『青雲』『五月鯉』、角さんから頂いた『童』『濃色一点花』、川島さんから頂いた『雪兎』『鈴姫』『山霧』『白連雀』『紋』等着実に増えている。

この年の暮れに、私の棚で増えていた『無双』『川霧』『粋白瀞』等お礼に送った事があるが、本場、紀州でどのように育っているだろうか？勿論、この程度では事足りない・・・何時か大きな恩返しをしなければ…と、これ等の花を見るたびに思っている。

信州では『イワチドリ』キチガイが少ない事は、既に、触れたが、仲間が居ないとどうしても熱も醒めてくる・・・近年、専ら、没頭しているのが、『地蜂：地方により（ヘボ）（スガレ）（タカブ）（ジスガリ）等と呼ぶ』で、一年中、このハチンブクと戯れている。蘭狂から蜂狂へでもないが？　ハチンブク『ヘボ』への情熱は留まる所を知らない・・・正直、寝ても醒めても頭の中は『ヘボ』の事しかない・・・アッチャァー一　汗汗・・・こんな訳だから『ヘボ』への思い込みも並ではない・・・年寄りの冷や水、65 歳にしてパソコンを始め、これを駆使して、ヘボの駄洒落本・写真集を彼是 10 冊近く造り上げた。よくしたもので、この駄洒落本を読んでくれる蜂狂も多い・・・暇潰しの趣味だから、欲しがる人には別けてやる事にしている・・・この冬、2.5 ヶ月掛け、A-4 版、210 ページのヘボ談義『 shy…、the Vespula 』を書き上げた。これは『イナバウワー』級の専門書に仕上がった。蘭狂同様、蜂狂にも面白い御仁がいる・・・中に、5 冊、3 冊と纏めて注文してくる蜂狂が居るから可笑しい・・・気前のいいオーナー社長で、従業員にプレゼントするらしい？　当に、蜂狂の中の蜂狂である・・・

勿論、気分転換に、この駄洒落本を書きながらもインターネットを開いている。Taku さん、千鳥足さんの HP である。何れも素晴しい。取分け、千鳥足さんの HP『渓谷の舞姫』は、レスポンスが速いので、毎日、訪問している。

時々、キリ番と称して、節々でボトル苗の景品を提供している・・・これが、また、面白い・・・最初の内は、私のような年寄りが暇に負かせ、当てていたようだが、最近では、このキリ番目当てに色々な蘭狂様、オバタリアンが群がるようになった。

キリ番が近づくとカウンターの周りが２倍にもなる・・・欲の張った蘭狂御仁達の登場と言う訳である・・・この遣り取りが実に面白い・・・インターネットを通して『イワチドリ』ファンが着実に増えているのだろうか？

そういう、私も欲の皮が張った一員である。まだ、訪問者が少ない頃、上手い具合にキリ番を２回続けてフンズケ景品に肖(あやか)った。そして、或る日、千鳥足さんから、御褒美が来た。

これには感激したネェーーー

私が『イワチドリ』に狂いに狂っていた頃、サトー山草園で○○万円も出し、買い求めてきた一点花：（仮称）『久美人』の子供を『白紀宝』と交換した事があった。嬉しい事に、瓶の中に、『久美人』の交配種が入っていた・・・　交配親は、千鳥足さんの『紅紀宝』とだった。『久美人』『紅紀宝』何れも絶品の花なので、子供は、きっと美人秀花になるだろうと信じ込んでいる・・・

（仮）久美人

因みに、『久美人』は、『星の輝き×大紫宝×日光』と言う交配から生まれたそうだ・・・ラベルに、こう書いてあった。

この瓶から絶世の美女が生まれれば、千鳥足さんに恩返ししなければならないと決め込んでいる。

今年は無理だろうが、来年を考えると、この年寄りでもワクワクしてくる。

なお、この他に３種類も瓶を頂き、この中に『糸菊』と言うラベルがあった。奇形花の好きな私にとって願ってもない一品になりそうだ。これ、また、ワクワクしない訳にはいかない・・・

　正直、今迄、長年お世話になり、頼りにしてきたドリームシードさんからボトルの調達が途絶え、『イワチドリ』栽培の熱がトーンダウンしていた時だったので、キリ番フンズケのインパクトは大きかった。言うまでもなく、また、やる気が出てきたと言う事である。

今年は、『イワチドリ』に『ヘボ』・・・

ウウーーン、忙しい年になるぞーーー

正月明けから植え替え出した鉢も、見事、新鮮な土に置き換えられ、化粧砂の間から見事な新芽が吹き出してきた・・・

千鳥足さん、お力添え有難うさんネェーー

最近の新花